地域・コミュニティ活動助成

「街のはなし」実行委員会

温故知新一地域の未来を担う次世代に街の来歴を伝える活動



団体設立経緯

「街のはなし」冊子の発刊は、 2014年に谷山恭子個人のアート活 動として始まりました。アーティスト の海外移住をきっかけに2017年よ り地域住民で構成する「街のはな し | 実行委員会として引き継ぎ、多 世代の住民や、地域外の関係人口 をも巻き込みながら冊子の発刊を 継続してきました。「温故知新一地 域の未来を担う次世代に街の来歴 を伝える活動」をテーマに、多世代 交流の場づくりと街の歴史の重要性 を波及させ、次世代へ街づくりのス ピリットを伝えるための活動です。

活動概要と活動対象範囲

アートを街づくり活動と絡め、幼 稚園児から80代まで11名の住民・関 係人口へ「街の中で好きな場所は どこですか?」という質問から始まる インタビューを毎年実施し、語り口 調をいかしたエッセイにまとめたそ れぞれのナラティブ(物語)を冊子 にします。

その場所を選んだ理由を聞くうち に場所の記憶や街の歴史が浮かび 上がり、ユニークな町史となります。 活動範囲は東急田園都市線たまプ ラーザ駅北側エリアを中心とした地 域です。

活動に至った理由や背景

当地域は1960年代に先進的な都 市計画に基づき開発された地域で あり、住民のたゆまぬ努力によって 良好な住環境を保ってきました。開 発から50年以上が経過し、地域イ ンフラの老朽化と街づくりを牽引し てきた担い手の高齢化が進んでい ます。地域の子どもたちと子育て世 代が、その成り立ちを知ることで 街に愛着を持ち、街を守り育てる のは住民自らであることに気づき、 自分ごととして街づくりに参加する きっかけになるツールとして、どこに もない町史作りを目指しました。



活動内容と成果

●「街のはなし」8号・9号の制作

H&C財団の他にヨコハマアート サイト、東急株式会社「みど*リンク」 アクションの助成をいただき、23名 にインタビューを実施。「街のはな し」8号と9号を製作し発刊しました。 活動を開始した2014年から通算 100名のナラティブが集まりました。

●地域への波及・貢献事業の拡充 【小学校の総合学習の時間への展 開・公開インタビュー】

小学校総合学習への関与は、コ ロナ禍のために実現できませんでし た。2021年9月6日に実施した小学 校校長へのリモートインタビューを 録画し、編集を経てYouTube「街 のはなしチャンネル」にて公開しまし た。音声や映像の記録・編集には、 音楽家・記録アーティスト藤木和人 が参加しました。校長先生のインタ ビューは「街のはなし」8号にも掲 載されています。

【街のはなし対談ラジオI~IV】

4回にわたり対談形式で、たまプ ラーザの配信スタジオ・スタジオシ フォンからYouTube「街のはなしチャ ンネル」で動画を配信しました。一 時帰国した谷山恭子をMCとし、過 去に「街のはなし」に関わった8名を ゲストに迎えて実施。「街のはなし」 の始まりから今日までの歴史を振り 返る、充実した内容となりました。 【QRコード入りステンレスプレート

の恒久設置】

過去の街のはなしから選んだ

「街のはなし対談 ラジオ」配信収録 の様子











トフォンに読み込ませると、 その場所にゆかりの話を音

12話を地域住民が朗読。その音声 をゆかりの場所で聴くことができる ORコードが刻まれたステンレスプ レートを、街なかに配置しました。 公園などの公共空間への設置には 行政(区役所、土木事務所)の理解 と強力なバックアップを得ることが できました。

プレートのデザインや仕様変更な どに時間がかかりましたが、22年 1月半ばに公共施設や民地、自治 会館など12カ所への設置が完了し、 聴く街のはなしMAPやシールなど、 街歩きイベントのためのツールも充 実しました。朗読音声の録音・編 集は、記録アーティスト藤木和人が 担当しました。

【環境音の採集、記録】

10年後、20年後、50年後には聞 くことができないかもしれない、現 在の街の音たち。電車の音、車の音、 工事現場の音、風の音、鳥のさえ ずりなどを採集して残す活動を継続 しています。再生したときに臨場感 の得られるバイノーラル録音・編集 は藤木和人が担当しました。

【「耳のまち歩き」サウンドウォーク】

谷山恭子の作品として過去のイン タビュー音声、環境音などで構成さ れたサウンドウォークイベントを、谷 山恭子のナビゲートで開催。地域 外からの参加者も多数あり好評で した。継続していくつかのパターン を制作中です。

2021年度 住まいとコミュニティづくり活動助成

●イベント

【写真選考会・朗読会の開催】

11月21日と27日、恒例の写真選 考会・朗読会を開催しました。文字 を目で追いつつ読むという行為と違 う、冊子の文章を声に出して朗読し、 それを耳で聴くという体験は毎年大 好評です。

はじめは人前での朗読を尻込み していた人も、一度体験すると毎回 リピーターになります。12月26日に はたまプラ・コネクト(地域通貨・ま ちのコイン)との共催でoVice (バー チャルオフィスアプリ)での朗読会に もトライしました。大人数で集まる 事のできない状況下では、この方 法も有効でした。

【発刊記念イベント街歩きツアー】

1月23日に「街のはなし」8号・9号 発刊記念イベントを開催する予定 でしたが、オミクロン型まん延のた め、参加者に冊子とマップを配布し てORコードを読み込みながら歩く、 屋外の街歩きイベントに切り替えて 実施しました。青葉区長の肝いりで、 地元情報紙の取材が入りました。

2021年度の活動と参加人数

2011年度の石動に参加八数			
イベント	開催日	会場	参加人数
インタビュー Zoom使用	2021年4月28日、 5月2・9・12・16・ 19・23・26・30日、 6月9日	ベルリン/たまプラーザ	延べ50人
校長先生インタビュー Zoom使用、動画撮影	9月6日	ベルリン/美しが丘小学校校長室	4人
YouTube対談ラジオ YouTube配信	11月12·13·19· 20日	スタジオシフォン	延べ680人
耳のまち歩き サウンドウォーク	11月13・20日	たまプラーザ周辺	延べ40人
朗読・写真選考会 新刊の朗読と写真の選考	11月21・27日	美しが丘中部自治会館 WISE Living Lab	延べ20人
リモート朗読会 まちのコイン共催オンライン イベント、oVice使用	12月26日	美しが丘中部自治会館	10人
発刊記念街歩き 「街のはなし」8号・9号とマップ配布、QRコードを読み込みながら街歩き	2022年1月23日	たまプラーザ周辺	20人
発刊記念YouTube配信 2021年度の活動報告	1月26日	スタジオシフォン	120人
計			944人

【発刊記念、活動報告: YouTube 街のはなしチャンネル放送】

1月26日には、23日に実施できな かった2021年度の活動紹介、発刊 の報告などを、スタジオシフォンよ りYouTube「街のはなしチャンネル」 で放送しました。谷山恭子はベルリ ンよりリモートで参加しました。

●ウェブコンテンツの充実、アーカ イブの強化:過去資料・インタビュー の見返し

これまで蓄積した100話を見返し 整理しました。朗読音声はYouTube 「街のはなしチャンネル」に、過去の 街のはなしを順次noteにアップして います。ホームページも充実し、閲 覧数も順調に増加しています。

8年間継続した活動により、累計 100人の「街のはなし」が集まりまし た。開発されてから50数年の間に 急激な発展を遂げた街の3世代にわ たる地域住民が語る、特別ではな い普段の生活からこぼれる言葉た ちは、生き生きと地域の変遷と社 会の変化を伝える物語です。アー ティスト谷山恭子の作品企画、イン



し」8号と9号。これまで に採録したインタビュー は、通算100話となった

タビューやエッセイ執筆、写真撮影 は、「地域外から来ている人」という 距離感が絶妙な効果を上げ、永松 大剛による冊子のデザイン性の高さ とも相まって非常にユニークな町史 となりました。

この土地で長く生活されてこられ た方々にとっては一種の「あるある たまプラーザ」であり、若い世代や 子どもたちにとっては「たまプラーザ トリビア であることで、世代間の対 話のきっかけにもなります。地元郵 便局から冊子やマップの配布スポッ トの協力を得られ、高齢者世代へ のアピールにつながり、毎回楽しみ にしてくださるファンが増えました。

昭和のニュータウンの温故知新。 先人の街づくり活動の蓄積と街の成 り立ちを知ることは、次世代の街づ くりの担い手である子どもたちが、 地域への愛着を持つことにつながり ます。また、彼らが当たり前のよう に日々享受している良好な住環境が 先人からのギフトであることへの気 づきも促し、未来に続く街並みとコ ミュニティの価値創造を目指すため の資源となり得ます。

紙媒体の読む「街のはなし」のみ ならず、これを題材にした聴覚に 訴える朗読会やサウンドウォーク、 街なかにORコードの印字されたプ





レートを恒久設置してゆかりの場所 で朗読を聞くことができるようにす るといった企画が実現。空間・時 間に加え身体感覚にも広がりを与え る、非常に有意義な展開であった と思います。音楽家であり、映像や 音の記録アーティスト藤木和人の参 加、地域の動画配信スタジオ、スタ ジオシフォンの協力により、環境音 の採集、朗読音声の録音、動画の

ンテンツも充実しました。

新刊の「街のはなし」、「聴く街の はなしMAP」ともに大好評です。 聴 く街のはなし街歩きがきっかけと なって、地域ケアプラザの高齢者 の街歩きとして利用したいが…と いう問い合わせや、たまプラ・コ ネクトとの共催で継続的な地域活 動としてのORコードプレートを巡 り歩く街歩きイベント企画も始まり ました。なかなかフィジカルな集ま りができない状況の中で、街歩き の告知にはたくさんの応募が集ま るようになりました。高齢者向け の街歩き、健康増進のための街歩 き、新しく街に入って来られる方の ための街歩きなど、様々なパター ンが展開できそうです。街歩きの 様子が地元情報誌タウンニュース に掲載(Chttps://www.townnews.

記録や配信など活動を記録するコ

co.jp/0101/2022/01/27/610278.html) 3 れたことで、冊子やマップの配布ス ポットに問い合わせが相次ぎました。

課題と解決方策

地域小学校のSDGsへの取り組 みと総合学習や生活科の授業の一 環で、居住地域についての授業で 公園や通りのゴミ拾いを実施しまし た。子どもたちは街をもっときれい にしたいという考えに至ったようで すが、もう一歩踏み込んだところで 「街の良さに気づく、街づくりに尽力 している人の存在を知る、街に愛着 を持つ、自分事として街づくりに関 わる」といった気づきまで促したい。

しかし子育て世代は外に目が向 いていて地域活動への関心が薄く、 指導される先生方の大部分も地域 外の方で、あまり地域の事をご存じ ない。地域住民の第一世代の高齢 化が進んだことで、これまで総合学 習の指導に協力してこられた地域の

歴史の語り部が激減しているという 問題があります。

そこで、残部僅少の号も出てきた 街のはなし9冊分100話をまとめて 地誌となる書籍の制作ができれば と思います。街の成り立ちを伝え、 年表・地図・写真なども整理して付 加した地誌として小学校図書室に常 備することで、先生方の資料、子ど もたちの地域学習のツールとなるの ではないかと考えています。

今後の予定

街のはなしをまとめた書籍の発刊 可能性を探ります。書籍の形態にこ だわるのは、デジタルになじまない 年代の方もまだまだ多いためです。 サウンドウォークのナビゲーターの 育成も考えています。街の変遷を経 験してきた世代も、年々減少してい ます。街の歴史の語り部としての役 割を担いつつ、地域の変遷を見守 る存在であり続けたいと考えます。

「街のはなし|実行委員会

2017年8月設立/メンバー数:8人/代表者:藤井本子(ふじい・もとこ)

machinohanashi.com www.facebook.com/machinohanashi/

☐ note.com/machinohanashi/ ►MACHI no HANASHI

地域に関わりの深い人々のナラティブを集めて記録し、「街のはなし」冊子の出版と 関連イベントにより、街づくりを担う次世代に地域の来歴を残し、より良いコミュ ニティのハブとなることを目指しています。

22 2021年度 住まいとコミュニティづくり活動助成